

11月16日の本校公開研究会に向け、先生方は授業研究を精力的に行っています。お互いに授業を参観し、自らの授業力を高めています。私も先生方とともに授業を見せてもらっています。

先生の指導とともに生徒の様子を見ています。説明、発表、対話が上手ですね。コミュニケーションのスキルが上達しています。そんな中、ちょっと気になることがありました。説明はわかりやすく上手なのですが、熟語を間違って読んでいました。発展的な学び、探究的な学び、コミュニケーションなど今日的な学力の育成に取り組んでいますが、その根底を成すことの1つが「読むこと」「書くこと」「計算すること」だと思います。

このことについてエピソードを紹介します。私の家の近所にベトナム人の御家族が住んでいます。先日、町会の子供会でバーベキューをしたときに、ゆっくり話をする機会がありました。

子供のお父さんは、会社に勤めており、外国からの研修生の通訳をしています。とても日本語が上手です。何と2年間で日本語を習得したそうです。私はお父さんに日本語習得法についていくつか質問をしました。

「日本語を学ぶとき、『話す』『聞く』からはじめましたか？」という問いに、「まず『書く』からはじめた。文字を覚えないと話すことができない」とのことです。また、「話すことや聞くことはどこでもできるが、読み書きは学校でないと学べない」とも話してくれました。

人それぞれ、また言語により習得方法に差があるのかもしれませんが、たくさん書いて文字を覚え、読むことができるようになってコミュニケーションが上手にできたということです。

今の日本の学校では、コミュニケーションを重視した外国語教育が進められています。コミュニケーションのスキルを高めるために、「覚える単語をつぶやきながら、ノートに鉛筆を使って何度も書く」という従来の学習方法も大切なんだなあ、と思いました。

中学校では、家庭で学習する課題があります。学びに適した季節になりました。学力をつけるために、読んで書き計算する学びをしっかりとしましょう。